

特集 1

生徒交流派遣事業で

岩手県山田町を訪問!!

池田中学校の2・3年生11人と池田高校の1年生4人が、8月3～6日(3泊4日)の日程で岩手県山田町を訪問しました。今月号では山田町で多くのことを学び、体験した生徒たちを特集します。

問合せ 役場地域振興課地域振興係 ☎572-3218

3日目の早朝、宿泊先のケビンハウスから歩いて向かった浦の浜海水浴場から望む山田湾。生徒たちは、池田町では見られない景色を楽しみました。

山田町ってどんなところ？

人口：1万3184人 ※令和8年9月1日現在。

面積：約262平方キロメートル

概要：岩手県の東部に位置し、陸中海岸のほぼ中央にある町。沿岸部はリアス式海岸特有の地形で、船越半島を挟み、北側には山田湾、南側には船越湾が広がっています。カキやホタテなどの養殖が盛んなほか、県内有数のマツタケの産地としても知られています。これまでに大きな災害を幾度か経験し、そのたびに復興を遂げてきた町です。



※出典 国土地理院
地理院タイル(白地図)を編集して作成

山田町への生徒交流派遣事業がスタート!!

山田町と池田町は、十勝ワインを通じた交流があり、平成23年3月11日の東日本大震災後には、復興支援のため池田町から職員を派遣。平成24年3月には、両町で災害時相互応援協定を締結しています。また、池田高校吹奏楽部では、震災後の平成23年6月から各地でチャリティー公演を行い、これまでに集めた義援金の総額約715万円を山田町に贈りました。平成24年から、3年ごとに山田町を訪問し、現地

で復興支援公演を行ってきました。同部による山田町への復興支援が令和6年で終了したことに伴い、山田町との新たな交流事業として、本年度から生徒交流派遣事業が始まりました。今回は、池田中学校と池田高校の生徒が山田町を訪問し、震災の教訓をはじめ、山田町の歴史や文化などを学ぶとともに、地域の方々との交流を通して、次世代の池田町を担う人材に成長してほしいという願いから、子ども夢基金を活用して実施しました。なお、来年度は山田町の生徒が池田町を訪問する予定です。



池田町と山田町の つながり



平成18年9月、山田町に「陸中山田十勝ワイン友の会」が設立され、十勝ワインを通じて、両町は交流を深めていました。

平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、山田町は大きな被害を受けました。

池田町では、十勝ワイン友の会のある岩手県宮古市と山田町を支援するため、同年4月に支援団を派遣し、支援物資を届けました。その後、5～7月の88日間にわたり、池田町から事務職員と保健師を山田町に派遣し、支援団として派遣した職員を含め、延べ約50人の職員が支援に当たりました。



平成24年3月には、山田町の沼崎喜一町長(当時)や陸中山田十勝ワイン友の会の佐々木克彦会長ら8人が池田町を訪れ、池田町と山田町が災害時相互応援協定を締結しました。締結式後には、沼崎町長による講演や町民交流会が行われました。

一方、池田高校吹奏楽部では、十勝ワインで交流のあった山田町に義援金を届けるため、震災後の平成23年6月から各地でチャリティー公演を実施しました。山田町に贈った義援金の総額は、約715万円に上りました。

また、平成24年からは3年ごとに山田町を訪問し、復興支援公演を5回開催しました。



同部による山田町への復興支援は、令和6年に実施した復興支援公演をもって終了しました。

Day 1 (8月3日)

出発式



道の駅遠野風の丘

山田町役場表敬訪問



役場の屋上から山田町内を眺望



バーベキュー



事前研修で 岩手県山田町を学ぶ

生徒交流派遣事業は、池田中学校の2・3年生と池田高校の全学年を対象に参加者を募集し、池田中学校から11人、池田高校から4人の計15人が参加しました。

派遣に先立ち、参加生徒を対象とした事前研修が7月28日、社会福祉センターで行われました。清水環地域振興課長が講師を務め、山田町とのつながりや東日本大震災、池田町と池田高校吹奏楽部の取り組みについて説明しました。生徒た



山田町に到着 佐藤町長を表敬訪問

ちは、訪問先である山田町についての知識を深めました。

初日の8月3日、新千歳空港から岩手県の花巻空港に到着した生徒たちは、山田町役場を訪れ、佐藤信逸町長を表敬訪問しました。代表生徒があいさつした後、参加生徒一人一人が自己紹介と今回の研修で楽しみなことを話し、佐藤町長からは歓迎の言葉を頂きました。また、役場の屋上から、復興した町の様子を確認しました。

その後、宿泊先のケビンハウスに移動し、バーベキューを行いました。生徒たちは、山田町産のホタテやしゅうり貝(ムール貝)など、地元ならではの味覚を楽しみました。

Day 2 (8月4日)



震災ガイドツアー



Day 3 (8月5日)



鯨と海の科学館



そば打ち体験



Day 4 (8月6日)



山田町職員の皆さんと記念撮影



解散式

震災学習で 防災について学ぶ

4日は、山田町中央コミセンで山田町職員による東日本大震災に関する講話が行われました。生徒たちは、被災状況や復興への取り組みについて説明を受け、東日本大震災への理解を深めました。

その後、山田高校の生徒による震災ガイドツアーが行われました。津波記念碑や、旧陸中山田駅に設置されていた津波到達時刻の午後3時27分を指したままの時計、山田町まちなか交流センター内の山田町震災伝承ギャラリーなどを巡り、津波被害に関する歴史や震災の教訓を学びました。

マリンスポーツなどで 山田高校の生徒と交流

4日の昼食では、山田高校のボランティア有志サークル「やまだわんぴいす」が開発した「三陸山田海鮮焼き麺」が提供されました。生徒たちは料理を味わいながら、山田高校の生徒と交流を深めました。

昼食後は、震災ガイドツアーを担当した山田高校の生徒と共に、オランダ島でマリンスポーツに挑戦しました。

シーカヤックやSUP(スタンドアップパドルボード)、バナナボートなどを体験し、山田町の海を満喫しました。

山田町の自然や 文化について学ぶ

5日は、「鯨と海の科学館」を見学し、山田町と深い関わりのあるクジラを通じて、三陸の海や自然環境について学びました。

続いて、田子の木生活改善センターに移動し、白石集落の「こつとん会」の皆さんに教わりながら、山田町産のアカモクを使ったそば作りを体験しました。生徒たちはそば打ちに挑戦し、打ったそばをおいしくいただきました。

その後、リニューアルオープンした「道の駅やまだおいすた」と「道の駅ふなこし・いぐべす」を見学しました。

学びと思い出を胸に 無事帰町

最終日の6日は、山田町B&G海洋センターで研修でお世話になった山田町職員の皆さんに感謝の気持ちを伝え、記念撮影を行いました。その後、山田町を出発し、午後5時に池田町へ到着。生徒たちは、3泊4日の研修を無事に終えました。



Photo Memories



①マリンスポーツ体験後、山田高校の生徒と一緒に記念撮影 ②2日目の夜はみんなで花火 ③やまだわんぴすが開発した「三陸山田海鮮焼き麺」をおいしくいただきました ④早朝に宿泊先のケビンハウス周辺を散歩 ⑤バナナボート出発前に記念撮影

生徒の感想文



池田中2年
丹羽 育歩さん

「研修の感想」

私は、岩手県山田町の生徒交流派遣事業に参加して印象に残ったことが4つあります。

1つ目は、震災当時のことや復興に向けた取り組みについての話を聞いたことです。池田町には津波がないのであまり想像することができませんでしたが、復興に向けての話を聞いたり、ガイドツアーで実際に津波が到達したところを見たりすると、改めて、津波が来るだけではなく、火災も発生してしまう地震はとてもこわいと思いました。

2つ目は、マリンスポーツ体験をしたことです。全て楽しかったのですが、特に印象に残っているのはSUPです。一番安定して乗れたと言いたところですが、盛大に海に落ちました。落ちた時は、頭の中が真っ白になりました。絶対に忘れられない思い出になりました。

3つ目は、山田町の高校生と交流したことです。山田町の高校生がガイドツアーをしてくれたり、一緒にお昼ご飯を食べたり、マリンスポーツをしたりして、一日でとても仲良くなることができました。今回お世話になった高校生以外の人も、これから交流する機会があったらうれしいと思います。

4つ目は、そば打ち体験をしたことです。普段体験できないそば打ちをすることができてうれしく思いました。初めてのことであり、完成したそばが極太になってしまいましたが、普段はできないことに挑戦できて楽しかったです。自分で作ったそばはとてもおいしく感じました。

最後に、今回の研修で山田町の歴史についてよく知ることができ、改めて、震災はとてもこわいということを知ることができてとても良かったです。また、おいしいご飯をたくさん食べることができて幸せでした。これから地震が起きたときには、学んだことを思い出し、町の役に立つ行動をしたいと思いました。

生徒の感想文



池田高1年
坂本 昂太さん

「山田とホタテと青」

私は今回の生徒交流派遣事業でさまざまなことを学び、たくさんの思い出ができました。

1つ目は、みんなで食べた焼肉と海鮮です。いろいろな海鮮をたくさん食べました。普段は食べることがないので、おいしいのかなと思っていました。ホタテが開くの待つ時間がもどかしかったのですが、とてもおいしかったです。山田町の海の恵みを感じた瞬間でした。

2つ目は、けがをした時に、山田町の役場の方や引率の方に夜遅くまでお世話になったことです。けがの影響でマリンスポーツ体験ができず、悲しかったです。ですが、気を遣っていただき、船に乗ることができました。餌を投げてウミネコを呼び寄せました。たくさん寄ってきて、鳥を操ったかのように思えて、とても気持ち良かったです。そして、人の温かさが身に染みました。

3つ目は、そば打ち体験です。やる前はそこまで大変だと思っていませんでした。実際にやってみると、一から生地を作ることから始まり、何度もお湯を入れて混ぜたり、生地を伸ばしたりと、とても大変でした。そば打ちのお姉さんは、速いスピードで細くきれいなそばを作っていて、そば打ちの難しさを実感しました。自分で作ったそばは太く、あまりおいしくなかったのですが、それも思い出の一つです。

4つ目は、自由時間でのことです。ケビンハウスの近くの海に何度も行きました。他にも、公園などいろいろな所に歩いていきました。防潮堤も近くで見て、とても迫力がありました。

今回、山田町に行って人の温かさを感じ、東日本大震災についても、行く前よりも深く考えることができたと思います。そして今度は、マリンスポーツ体験をするという新たな夢ができました。



池田高 1 年生が献血授業で 医療や社会貢献について学ぶ

池田高校（佐藤秀樹校長、生徒63人）で9月3日、1年生31人を対象に、北海道赤十字血液センター帯広出張所による献血授業が行われました。

この授業は、現在の医療について学び、社会貢献への意識を高めることなどが目的。同出張所の鈴木清晃所長が講師を務めました。

鈴木所長は、献血が必要なる理由として、医療現場では病気やけがの治療に多くの血液が使用され

ていることを説明。また、血液を必要としている人にとって献血は重要であり、社会貢献につながるかと話していました。その後、生徒たちは実際の献血車に乗り、献血の流れについて説明を受け、献血への理解を深めていました。

授業を受け、横尾悠人さんは「注射は苦手だが、頑張って献血したい。また、周りの人にも知ってもらえるように広めたい」と話していました。

8月着任の 池田町地域おこし協力隊を紹介しまあ



プロフィール

氏名 まつもと あきら 松本 明
 年齢 44歳
 出身 東京都足立区
 経歴 東京都内の大学を卒業後、学習塾講師、小学校教諭などを経て協力隊へ
 趣味 読書、北海道内をドライブ

担当ある仕事

高校魅力化推進員

内容 企画財政課企画調整係に所属し、高校の魅力化や総合学科の特色を生かしたキャリア教育の推進などに取り組みます。

任用期間 1年
 (更新により最長3年まで)

▶ 協力隊応募のきっかけは

協力隊に興味がある人を対象としたマッチングサイトに登録していたところ、池田町役場から連絡をいただいたことがきっかけです。他の自治体からも連絡がありましたが、北海道は過ごしやすい印象があったことに加え、教育に関わる業務での募集だったことから、池田町への応募を決めました。

▶ どのような活動に組みたいか

池田高校の魅力化の推進に加え、先生方が全力で取り組みたい業務に専念できるよう、授業の準備など、できることを手伝いながら陰から支えていきたいです。生徒の皆さんには、さまざまな体験を通して、これまで考えられなかったことについても、自由に考えられるようになる喜びを味わってもらえるように頑張ります。

▶ 町民の皆さんに一言

町内で見掛けた際は、小・中学生くらいまでのお子さんのことであれば教育相談にも乗りますので、どんなことでも気軽に声を掛けてください。

こんにちは、今年3月に着任した高校魅力化推進員の菊田です。

夏休み中の池田高校では、生徒たちがそれぞれの目標に向かって部活動に取り組んでいました。大会での活躍を目指して汗を流す運動部、心に響く演奏や作品づくりに打ち込む文化部。仲間と支え合いながら挑戦を続ける姿は、まさに高校生活の輝きそのものです。

今回は、池田高校で活動する部活動について取材し、顧問の先生や生徒の皆さんの声とともに、池田高校の部活動の「魅力」を紹介します。

文責

高校魅力化推進員
菊田英輝

池田高校
ホームページ



スケート部

部員6人が週6日の練習に励むスケート部。夏はランニングや筋力トレーニング、フォーム練習などで基礎を徹底的に鍛え、シーズンに備えます。「インターハイ表彰台入り」「自己ベスト更新」など、一人一人が明確な目標を掲げ、互いに刺激し合いながら成長しています。

練習は厳しくても、笑顔あふれる雰囲気と自主性の高さが魅力。顧問の山澤先生は「ミラノ・コルティナ五輪に出場した山田和哉選手が育った環境で、自分の可能性に挑戦してほしい」とエールを送ります。



- 部員数 6人
- 活動日 毎週月～土曜日
- 目 標 自己ベスト、インターハイ表彰台入り

顧問の山澤先生

自分の良さを磨き、新しい自分を創造しよう!!

筆 者：普段陽気な部員の真剣な表情で練習に取り組む姿が印象的で格好良かったです！
頑張れ！池高スケート部!!



吹奏楽部

部員3人の吹奏楽部は、本別・足寄高校との合同バンドで十勝地区大会に挑み、全道大会への出場を決め、合同バンドとして初の金賞を受賞しました。

少人数ながらも「お客さまに楽しんでもらえる演奏」を目標に、めりはりのある練習を続けています。地域での演奏活動にも積極的に参加し、音楽を通して多くの人に笑顔を届けています。さらなるステージでの活躍が期待されます。



- 部員数 3人
- 活動日 毎週火～土曜日
- 目 標 全道大会に出場して金賞受賞

顧問の古城先生

現在は少人数ではありますが、歴史ある池田高校吹奏楽部で、地元十勝はもちろん、札幌や苫小牧など、各地で生き生きと演奏活動に励んでいます。これからも応援をよろしくお願いします！





弓道部

部員4人が静かな弓道場で一射一射に集中し、全道大会出場を目標に稽古を積んでいます。高校から競技を始めた部員も多く、「運動経験がなくても始められる」のが弓道の魅力。矢が的に吸い込まれるように命中した瞬間の爽快感は格別です。



「日本の伝統文化に触れながら、一緒に弓道を楽しみましょう」と、中学生にメッセージを送っていました。

- 部員数 4人
- 活動日 毎週火～土曜日
- 目標 9月の選抜大会で2位以内に入賞

顧問の福本先生

歴史と伝統のある池田高校弓道部。新たに弓道に挑戦してみたい中学生はもちろん、OB・OGの皆さん、昔の池田高校や池田町の弓道をご存じの方も、ぜひお気軽にお越しください。



卓球部

部員2人で活動する卓球部。普段は笑い声の絶えない明るい雰囲気ですが、ラリーが始まると真剣な表情に一変します。目標は公式戦で初勝利を挙げ、その先にある全道大会に出場すること。少人数だからこそ支え合いながら練習に励み、「部員が増えたら団体戦にも挑戦したい」と話していました。卓球を通して仲間との時間も大切にしています。



- 部員数 2人
- 活動日 毎週火・木曜日（大会前は毎日活動）
- 目標 ゆくゆくは全道大会出場

部員：おしゃべりが楽しくて、いつも大笑いしている環境です。2人の試合がかぶると、ベンチコーチ（アドバイスや応援をしてくれる人）がいなくて少し寂しいです。



美術部

部員2人が美術室で静かにキャンバスに向き合う美術部。今年は「目からウロコ」をテーマに油絵を制作し、高文連での優秀賞を目指しています。試行錯誤しながら「できる限り実物に近づけたい」という思いを込めて作品づくりに励む姿が印象的でした。



「高校で本格的に美術を学びたい人は、ぜひ池田高校美術部へ」と、笑顔で呼び掛けていました。



- 部員数 2人
- 活動日 毎週月～金曜日
- 目標 高文連優秀賞

筆者：美術室で真剣にキャンバスに向き合う横顔がとても印象的でした。今年こそ全道大会で優秀賞ゲット！応援しています！！



バドミントン部

部員8人が「楽しく、元気に」を合言葉に活動しています。夏休みには池田中学校バドミントン部との合同練習も行われ、高校生が中学生と共に汗を流しました。新人戦では2部でベスト4入りと1部への昇格を目標に、基礎を大切にしながら日々練習を重ねています。「池田高校で一緒にバドミントンをやりましょう！」と、新しい仲間を歓迎しています。



- 部員数 8人
- 活動日 毎週月～金曜日
- 目標 新人戦2部でベスト4入り

筆者：顧問のこばやし小林教頭による熱いげきで始まったこの日の池田中学校との合同練習。真剣なまなざしで練習に取り組む様子が印象的でした。普段のバドミントン部の雰囲気は、「楽しく、元気に、わいわい」です。

池田高校では、競技力や技術の向上だけでなく、仲間と支え合う心や挑戦する姿勢を大切にしながら日々活動しています。それぞれの目標に向かって努力を続ける生徒たちの姿は、学校の大きな魅力です。地域の皆さんも、これからの活躍をぜひ温かく応援してください。